



## 島田美由紀

パーカッション奏者／しまだみゆき

profile ●7歳からピアノ、15歳から打楽器を学ぶ。東京コンセルヴァトアール尚美（現・尚美ミュージックカレッジ）打楽器専攻卒業。打楽器を小川佳津子、日比一宏、藤田浩司各氏に師事。在学中から打楽器講師や演奏活動を開始。ヤマハ千葉店マリンバ講師を経て、県内各地の小中学校や高校、吹奏楽講習会にて打楽器トレーナーを務める一方、地方自治体テーマソングレコーディング参加、コンサートホールやライブハウスほか各種施設等にて演奏活動を行う。

マリンバやカホン、コンガなどを演奏するパーカッション奏者であり、講師としても活動を続ける島田さんに、パーカッションの魅力や今後の活動について伺いました。

打楽器を始めたきっかけと、音楽家として活動するまでの経緯を教えてください。

ピアノは7歳から始めていましたが、打楽器を始めたのは、吹奏楽部に入部した高校1年生のときです。ドラムを叩いていたら面白くなって、当時は吹奏楽部の活動とは別に、ロックバンドを組んでドラムを担当したりしていました。バンドブームだったということもあり、将来はバンドのサポートをするパーカッション奏者になれたらいいなと思い、音楽の専門学校に入学して打楽器を専攻したんですが、クラシックが専門の学校だったんですね。でも、せっかくクラシックを深く追求する学校に入ったのだから、そこで学べることをしっかり学ぼうと思ったんです。専門学校に在学中から打楽器講師や演奏活動を行い、卒業後に音楽教室での講師になり、その後プロとして独立しました。

現在は、主にどんな活動を行っていますか？

現在は、ライブハウスやカフェ、公共施設や学校等で、演奏活動を行っています。ラテンパーカッションやマリンバ、ポピュラーピアノを用いて、クラシックやポピュラー、ラテン音楽、ジャズなど幅広いジャンルの曲を演奏しています。また、運営している音楽教室では、パーカッションとピアノの個人レッスンをメインに講師をしています。中学校や高等学校の吹奏楽部の打楽器トレーナーとしての活動もずっと続けています。4月20日には、蘇我コミュニティセンターハーモニープラザ分館のハーモニーホールでワンコインコンサートを開催します。ピアノやエレクトーンの先生を対象に、打楽器の奏法やリズムのレクチャーなどをするオンラインの教室なども予定しています。

島田さんが思うパーカッションの魅力、音楽の魅力とは何ですか？

演奏する側から思う魅力は、楽しくて簡単そうに見えるけれど、奥が深いところですね。鑑賞する側としては、聴いていると自然と体を動かしたくなるところでしょうか。演奏を聴いてくれるお客さんを見てみると、そう思います。パーカッションは老若男女問わず聴く人を選ばないし、聴くと晴れやかな気持ちになって、嫌なことを一瞬でも忘れられる、そんなところも魅力ですね。

音楽は、私にとってなくてはならないものですし、一生続けていきたいものです。

島田さんの演奏家としての特徴と、講師としての特徴はそれぞれ何ですか？

演奏家としての特徴は、演奏する楽器もジャンルも幅が広いということですね。クラシック出身なんですけど、ジャズやラテン音楽、ポップスが好きなので、お客さんの要望に広く応えることができます。

自分が高校生生のときには、地元で専門の先生がいなくて、個人レッスンも受けることができなかったのが、講師としては、地元で気軽に頼ってもらえるような先生を目指しています。楽器をやっていると、本やネットではわからないことも多くて、高校生生のときは、専門の先生に対面で聞いたかったことがたくさんあったなと今でも思うので。

音楽家としてチャレンジしたいことと、目指すものは何ですか？

キューバやメキシコ、ブラジルなど中南米の路上でパーカッションを演奏してみたいです。現地の人たちと路上でセッションできたらものすごく楽しいだろうなと思って。演奏家としては、アドリブの技術を磨いて極めたいですね。将来的には、オリジナル曲や演奏の音源など、何か形として残したいと思っています。

将来音楽家を目指す人たちに、アドバイスをお願いします。

生徒には、「明日何が起こるかかわからないような時代なので、好きなことをどんどん極めてほしい」と、よく話しています。

読者のみなさんにメッセージをお願いします。

音楽をたくさん聴いて、楽しんだり癒されたり元気になったりしてください。コロナ禍も落ち着き、以前のように生演奏をいろいろな場所で聴くことができるようになってきたので、自分の演奏に限らず、生演奏の音楽を聴きに行っていたらいいと思います。

パーカッションの魅力が伝わる演奏を、たくさんの人に届けたい